令和７年度　自己評価結果公表ｼｰﾄ

自令和７年４月１日～至令和８年３月31日

学校法人　敬愛学園

山田敬愛幼稚園

1. 本園の教育目標

教育の目的は、立派な人格を持った人間を育成することです。そして、人格の基礎は幼児期に形成されます。山田敬愛幼稚園は幼稚園指導要領と、浄土真宗の生活信条、そして親鸞聖人の精神にもとづき、すなおで明るく、やさしく、元気のよい、ほとけの子どもを育てます。

★ほとけさまを拝む、明るくて豊かな心を持った子ども
★健康で、心身ともに活動的な子ども
★お友だちと仲良くあそび、だれからも愛される子ども
★「ありがとう」と、すなおによろこび、たたえる子ども
★よく聞く態度と、理解力、創造力をもった子ども

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施する事によって、教師自らが客観的に、多角的に保育を見つめる視点を養い、教育内容のより一層の充実に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して教職員間の共通理解を図る。	全教職員で、研修会や各行事後の反省会等で積極的に研究・研鑽し、それを現実の保育に活用できるように、具体的な場面について対策を行っている。
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	幼稚園に求められる社会的なニーズが変化しつつある中、本園がこれから長期的にワークライフバランスの調和を考え、職員の負担軽減を具体的に検討し、保育内容の軽減策を継続的に実施している。
教育の質の向上のために、園内研修、職員会議を活発化させる。	幼児の発達の姿をとらえるための研修を定期的に実施するとともに、日々の子供の姿について話し合う機会を持ち、自由闊達に意見が開示できる環境を作っている。研修会では、外部講師を招聘することにより、専門的な研究主題についての共通理解ができ、研究の視点を明確にする。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	保護者会との連携をとり、保護者の意識や意見を収集する。出された意見に対して必要なものについては園の考え方を示し、改善を講じています。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価と他者評価を繰り返し、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する方向性を得ることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
危機・安全管理	危機・安全管理マニュアルの作成及び見直し ・地震発生時の対応 ・危機管理マニュアルの改善・改訂
支援を必要とする幼児の 指導計画の編成	幼児に対応した個別の指導計画の作成するとともに、保護者及び行政・医療・福祉の関係機関との連携を図る。
幼小の連携	就学の際、該当小学校との懇談を実施し、スムーズな就学に寄与する。小学校への憧憬の念を抱くなど幼児の成長を促す機会を図る。
子育て支援の充実	地域の就学前児童及び保護者を対象とした園庭開放、未就園児親子教室、親子ふれあい事業、もちつき、運動会などの参加を促し、親子の連携や相互コミュニケーションに寄与する。

6･学校関係者の評価

園運営や保育活動の充足に向けて計画・活動がされており、総体的には課題や評価・取り組みについて評価をするに値する。特に教職員が保育や保護者に対して常に真摯な態度で対応する継続的な姿勢は評価できます。 子ども達一人ひとりの育ちに応じた細やかな対応も適応しています。発達に遅れのある子ども達にも個別対応で行政機関やキンダーカウンセラーともしっかりと連携して親子へのサポートも顕著である。園児システムの改革や職場環境の改革等、教職への働きやすい環境作りへの配慮も窺われる。

7. 財務状況

毎年、公認会計士の監査を受け、適正に運営されていると認められている。